

4-6

演題	入所者様とともに非常災害を考えていく
副題	～災害時には入所者様も職員も被災者となる～

防災活動

土砂警戒区域

法人名 社会福祉法人 研水会

施設名 高根台ホーム

発表者名 (職種)	海内 康司・小林 和美 介護職員	都道府県	神奈川県
共同発表者	今井 治子	住所	平塚市万田3丁目18番10号
共同発表者		TEL	0463-31-4972
共同発表者		FAX	0463-35-2290
共同発表者		メールアドレス	info@takanedaihome.or.jp
共同発表者		URL	http://www.takanedaihome.or.jp

今回の発表施設 またはサービスの 概要

平塚市の観光名所「湘南平」の近くにある従来型の特別養護老人ホームとなります。
入所120床とショートステイ20床の施設です。おもてなしの心をもって自然豊かな環境で、ぬくもりとやさしさのある支援を実践しています。

研究の目的、PRポイント

施設所在地が土砂災害警戒区域に指定されており、台風や豪雨の際、裏山が崩れる可能性がある想定されています。施設周囲には川も多数存在し、これまでも内水氾濫に見舞われショートステイや出勤に大きな影響を及ぼすことがありました。
近年は地震なども多く、入所されている方々の生活を維持するためには、職員だけではなく地域や家族・当事者の入所者も巻き込んだ非常災害活動の必要性を感じ、現行の取り組みを振り返りつつ、災害活動をアップデートしようと試み、研究のテーマとしました。

取り組んだ課題

防災活動を入所者と一緒に実践する取り組みを通して、入所者と自助の実践力を身に付けていく方向性を定めました。また施設内には非常災害安否確認サービスの導入がされているため、情報共有の有効な活用を促す取り組みを行い、非常災害時の事業所間連携を柔軟にとれることを視野に働きかけを行いました。また、入所者家族や地域の方々も災害時は支援者となっていただくべく、どのような関わりが今後必要か、検討していくことにしました。

具体的な取り組み

- ① 職員の防災意識をより高めていく
→ 安否確認サービストヨコモ登録者UPと活用促進
→ シェイクアウト訓練の実施(入所者とともに)
- ② 自助活動の促進
→ 薪ストーブを活用・炊き出し訓練レク
→ 垂直避難訓練、発電機操作訓練
- ③ 自助の輪を拓げる取り組みと課題の創出
→ 入所者家族への防災アンケート実施
家族のできる支援はなにか探る

活動の成果と評価

- ・ 職員と入所者ともに、自身を守るための防災意識の芽生えと、避難行動がとれるようになること
- ・ 安否確認サービストヨコモの登録者数UPと活用UP

- ・ 入所者家族アンケートより、家族のできる支援を知り、非常災害時の協力体制を今後構築していける材料とする
- ・ 研究を振り返り、新たな課題と気づきを見出す

今後の課題

- ・ 入所者のADLに合わせた防災活動の創出訓練とともに実施できるような創意工夫
- ・ 非常災害も想定したアクティビティ活動の継続
- ・ 地域の防災活動への参加(協力体制の構築)
- ・ 家族と非常災害について考え、活動とともに実施する計画の立案

参考資料など

ひらつか防災ガイドブック
(令和6年1月発行)
平塚市ホームページ
トヨコモ株式会社
(安否確認サービス データ活用)